

事業名	家庭教育講座「窓ガラスお絵描きワークショップ・どうろあーとワークショップ」				
ジャンル	<span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">家庭教育</span> ・ 青少年教育         ・ 成人教育         ・ 団体育成				
日程	窓ガラス：8/9（土）10：00～12：00 どうろ：8/22（月）10：00～12：00	講師	久本 綾 (アトリエティエラスールこども造形教室講師)	参加費	500円
対象者	佐倉市内の小学生とその保護者	参加者数 (延べ)	窓ガラス：11組32名 どうろ：15組41名	募集方法	広報、チラシ、HP、SNS (Facebook・twitter)
趣旨	中央公民館の窓ガラス、道路（駐車場）をキャンパスにして親子で一緒に絵を描いてもらうことで、子供達の自由な感性を育むとともに、親子で一緒にものを創り出すことの楽しさを感じてもらうことを趣旨に企画。夏休み期間中に実施したので、なかなか遠出できないコロナ禍の中、普段できないこと（窓ガラス、道路に絵を描く）をしてもらい、夏休みの思い出にしてもらうことを意図した。さらにできあがった作品をその後一定期間展示することで（どうろあーとは消えるまで、窓ガラスお絵描きは1か月間展示）、参加者のみでなく、来館者の方にも楽しんでもらうことも目的とした。				
内容	窓ガラス：中央公民館の1階玄関近くのロビーの窓ガラスをキャンパスにして、水で落とせるクレヨンを使って、森をテーマに自由に窓ガラスに絵を描いてもらう。完成した後は1か月間展示する。 どうろあーと：中央公民館玄関前の駐車場をキャンパスにして、チョークを使って、海をテーマに自由に描いてもらう。				
工夫	窓ガラス：屋内開催だったので、コロナ対策として描く範囲を事前に指定した。テーマである森のイメージがわくように木や葉っぱのオブジェを作成（佐倉東高校依頼）、森に関連した市内図書館所蔵本を展示した。絵を描く前に先生が森についての話をし、参加者間で森のイメージを共有した。見学席をなくし、平台を設置したことで親子で一緒に描けるようにした。 どうろあーと：真夏の屋外での開催だったので、テントを設置、熱中症対策を行った。窓ガラス同様、テーマに関連する市内図書館所蔵本を展示、テーマである海のイメージを共有できるようにした。屋外だったので描く範囲は指定せず、参加者間で交流がとれるようにした。佐倉東高校美術部にもボランティア協力をお願いし、世代間交流を図った。				
成果	窓ガラス：絵を描く前に、森についてのイメージを参加者で話し合ったので、昨年より参加者間で一体感が生まれた。お子さんと同じくらい熱中している親御さんもいて、大人側、子供側のアンケートではどちらも「楽しかった」「少し楽しかった」を合わせると満足度100パーセントの結果となった。 どうろあーと：描く範囲を指定しなかった結果、参加者達の距離が縮まり、初対面の子供たちが友達になる場面が多々見受けられた。アンケートでも自由に大きくのびのびと、友達と協力して描けたことを満足する理由に多くあげていただき、参加者が交流する空間を作ることができたと思う。アンケートでも満足度は100%となった。				
課題	窓ガラス：どうろあーとワークショップと比較すると、描くスペースが予め決まっていたこともあり、参加者間の一体感はあったが、交流は少なかった。もう少し参加者間で交流できる仕掛けがあるといい。 どうろあーと：窓ガラスアートと異なり、あまり先生の話や聞き手に勝手に始まる子が多かった。今回はテーマが「海」だったので、イメージを共有せずとも自然と一つの作品となったが、テーマが複雑だとバラバラになり統一した作品ができない可能性もあるので、きちんとイメージを参加者間で共有する仕掛け、時間を作る必要がある。				

【公民館による事業評価】

項目	評価	視点
必要性	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>公民館が行う必要があるか。</li> <li>市民や利用者のニーズに合っているか。</li> <li>目的や役割が薄れていないか。</li> <li>事業の休止・廃止した場合の影響は大きいかな。</li> </ul>
優先性	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業の優先度は高いか。</li> </ul>
公平性	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象者に情報は流れているか。</li> <li>受益者負担はあるか(実費・教材費)</li> </ul>
有効性	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>期待通りの成果が得られているか。</li> <li>さらに成果を高めるためにやり方の見直しは必要か。</li> <li>市民の満足度は高いか。</li> </ul>
効率性	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業の効率性はどうか。</li> <li>事業運営に学習者が参画しているか。</li> <li>他事業との統合は考えられるか。</li> </ul>
総合評価	A	A：適切で成果が得られている。 B：課題あり、成果はある程度ある。 C：課題あり、成果があまりない。 D：成果が得られていない。
特記		

《凡例》 良し ← A B C D 良くない

《判定例》

A	A	A	A	A	A	A	A
A	A	B	B	A	A	A	A
A	A	B	B	A	A	B	B

次年度展望	②	①：事業拡大 ④：目的達成により終了	②：現状規模で継続 ⑤：統合・改善・その他	③：事業縮小
-------	---	-----------------------	--------------------------	--------

## ☆公民館運営審議委員付帯意見

(A：適切で成果あり B：成果はあるが、改善の余地あり C：要改善)

<p>委員①</p> <p>総合評価</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部との協力（佐倉東高）は有意義である。→スタートのイメージづくり、世代間交流、地域の広がり</li> <li>・コロナ禍での試みとして大変よい機会であった。</li> <li>・本の活用（休憩も兼ねて）もよい。</li> <li>・改善できるところはありますが、スタートしたことの方が大きい。</li> </ul>
<p>委員②</p> <p>総合評価</p>	<p>A</p>	<p>新型コロナウイルス拡大防止のため、学校では親子で参加する行事や家庭教育学級などが、ほぼストップしていた。そんな中で、夏休みにこのようなワークショップが開かれ、参加者は楽しめたと思う。また、その場限りのものでなく、形を一定期間残すことで、来館者にも楽しんでもらえるように工夫されているのは画期的だと思った。夏休みで、参加しやすい反面で、コロナ感染拡大防止、熱中症予防、雨天時の対応と、スタッフの苦労がしのばれる。自分も幼いころ、石で道路に絵を描いて遊んだことと、併せて、その後大人に大目玉を食らったことを懐かしく思い出した。「安心して、いたずら気分が味わえる」というのは、親にとっても子にとっても楽しかったのではないかな。</p>
<p>委員③</p> <p>総合評価</p>	<p>A</p>	<p>非日常感が演出され、公民館来館時に目を奪われた。親子の作業がほほえましい。どーろあーとも同様である。子どもの伸びやかな作業が良い。</p>
<p>委員④</p> <p>総合評価</p>	<p>A</p>	<p>既存の資源の窓ガラスや駐車場を利用したの事業はコスト面・目新しさなど感心しました。ゲーム性を持たせて参加者同志の交流を持てると良いと思います。次年度も継続をしていただきたいと思います。</p>
<p>委員⑤</p> <p>総合評価</p>	<p>A</p>	
<p>委員⑥</p> <p>総合評価</p>	<p>A</p>	<p>子ども達と一緒に海を書きました。子ども達は想像力がたくましいことと、すぐにお友達になって一緒に魚を創り出す楽しさ、喜びを感じていました。子ども達は非日常的なことを保護者の方と一緒に達成感を味わえたと思います。継続して欲しいです。</p>
<p>委員⑦</p> <p>総合評価</p>	<p>B</p>	<p>残念ながら実見していないので多くを語る資格はないのですが、2時間という限られた時間で、壮大な「森と海」のテーマに立ち向かった子どもたちは苦労したろうなと思いました。事前に高校生がイメージづくりをし、講師の話、関係図書まで揃えて、とありました。そして、今日初めて会った友達とこれから描こうという姿を共有して描き始める作業のようです。講師がイントロでどんな話をされたかによりますが、報告の中に「環境」という言葉がなかったので、私のイメージする「森と海」とは少し違っていたかも知れません。今回、講師の先生からそういう話もありましたよという場合はごめんなさいですが、せっかく「森と海」の設定であれば、「森が海をつくる」のストーリーが成り立ちます。言いたいことは、ストーリー性のある絵になると最高だということ。窓ガラスに描いた森の様子を、後日開催の海の日に観察して、森の恵みを受け入れる海の様子へと展開します。森は有機物を生み出し、微生物が分解すると栄養分になり、水分とともに川を流れ海に注ぎます。この養分がプランクトンのエサになり海の生きものの口に入ります。私たちが日常食べるアジ・サバ・タイなどの魚、カキ・ホタテなどの貝類、昆布・ワカメなどの海藻類も森に育てられているのです。そこで提案です。窓ガラスや駐車場など、普段は「ダメ！」と言われる領域で、集団でする落書きが公認となればそれだけでも嬉しいわけですが、作品を1か月も展示しておくのであれば、内容的にその意図がしっかり伝わるものにすれば、学習効果が倍加するのではと考えます。そのためには、時間をかけたオリエンテーションが必要ではないでしょうか。開催日を1日増やして座学を取り入れたらいかがでしょう。低学年の児童でも理解可能な内容にすればいいことです。今年限りにせず、継続を望みます。</p>

委員⑧		<p>○私が中央公民館利用の日に、窓ガラスに大きな絵が描かれているのを見るのが、とても楽しみでした。描く作業を見ていませんが、楽しそうに描く姿を想像させる豊かな表現に心躍らせて見ておりました。公民館の大きな窓ガラスならではの、スケールの大きさが作品の価値を一層高めていたように思います。</p> <p>○佐倉東高校美術部の応援があったようですが、作品にもその功績が見えていました。公民館と高校生のコラボとでもいえましょう。高校生にとってこの経験が将来につながることを期待されます。これも事業評価になるのではないのでしょうか。</p> <p>●「親子」という言葉が問題になっていました。「家族」と言えば焦点がぼけるかもしれませんが、むしろ子どもを中心として家族のだれでも参加できる希望が持てると思います。</p>
総合評価	A	

委員⑨		<p>窓ガラスお絵描きWSと道路アートWSは、普段なかなか取り組めない体験で、参加者の創作意欲を描きたてるものであり、夏休みの良い思い出になったと思います。夏休み中の児童の活動として引き続き取り組まれたらよいと思います。</p>
総合評価	A	

委員⑩		<p>両企画とも、子供たちと保護者が一緒に参加し、しかも子供たちの自主性を主体にした企画で、今までになかった事業だと思います。「窓ガラスお絵かき」「どうろあーと」のワークショップとも、子供たちが一生懸命に取り組んでいる姿が浮かんできます。また、親子や参加された保護者同志の交流で、コミュニケーションの高揚が期待できたとのこと。「窓ガラスお絵かき」は外からも確認でき、ほとんどの来館者は館内からも眺め、絵を楽しんでいた様子が想像できます。</p> <p>「どうろあーと」は数日間だけでも鑑賞できる方法を考えられるといい。事業の継続をお願いします。</p>
総合評価	A	

※社会教育法第20条を根拠として評価

委員⑪		<p>〔事業区分〕学術及び文化に関する事業  〔目的〕（事業のめざすもの）（児童の）情操の純化を図る。  日常体験できないキャンパスの上に、子供達が積極的かつ自主的な態度と、豊かな感受性を持ち自己表現したことは大変有意義な事業だと思います。今後共続けてください。  （改善点）開始時にイメージを与えたり、又、話は5分以内（集中心）作品の統一性を追求することはしないでほしい。当委員会の中に情操教育に携わっておられる委員からアドバイスを受けるのも、より良い事業にするための一策と思います。</p>
総合評価	A	

委員⑫		<p>斬新な試みで、コロナ禍で制限された生活をしいられた子どもたちが保護者と一緒である安心感のもと、窓と道路（駐車場）という広い空間で、思いっきり絵を描く楽しそうな姿が目につくようである。佐倉東高等学校美術部のコラボというのもとても良いアイデアだと思う。</p>
総合評価	A	

委員⑬		<p>公民館利用者が比較的年齢層の高い昨今、保護者と子供達の企画が少なくなっています。今後も費用をかけない企画を数多く実施していただきたい。</p>
総合評価	A	

委員⑭		<p>健康対策をしつつ、子ども達の広がる創造性を引き出す企画はとても良いと思います。また、高校生のボランティア参加も良かったです。窓ガラスアートが始まって、中央公民館に立ち寄るのが楽しみでした。</p>
総合評価	A	

委員⑮		<p>OSNS（ユーチューブ、フェイスブック）の配信楽しみに拝見しています。  ○11面のガラス面見えています。三者間の協調もうまくいっていました。道路のお絵描1日限りは残念。</p>
総合評価	A	